

2023年4月10日

## 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	天田城介		
NAME	Josuke Amada		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

## 1. 研究課題

東アジアにおける生存保障システムの現代史

---

## 2. 研究期間

2021・2022年度

---

## 3. 費目別収支決算表

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究の目的は、【1】「戦後日本型生存保障システム livelihood security system」と呼ぶべき社会的仕組みがどのような時代的・歴史的な文脈のもとでいかに変容してきたのか、それは1990年代以降においていかなる綻びを見せてきたのか、【2】また、戦後日本社会における生存保障システムは欧州・アメリカ、とりわけ東アジアにおけるそれといかなる差異があるのか、【3】今日、それぞれの社会における生存保障システムの限界や課題はいかに生じているのかを解明するものである。上記を2021年度・2022年度の2年間における国際比較分析から明らかにする計画であった。

しかしながら、コロナ禍により海外調査は全て断念せざるを得なかったため、予定していた海外調査は文献研究に切り替えざるを得ず、また今回は【1】に圧倒的な比重を置いた調査計画へと変更し、2022年度には国内調査を実施し、その成果をまとめざるを得なかった。その成果の一部は、2023年2月刊行の『生活経済政策』314号などに寄稿しているが、2023年度に複数の著書・編著をまとめる予定である。また、副産物であるが、上記の福祉社会学の文献研究から得た「1990年代以降の福祉社会学会の研究動向」についての討議を2023年7月2日に開催される第20回福祉社会学会大会のシンポジウムにて、また「コロナ禍における社会調査の困難」についての報告を2023年10月9日に開催される第96回日本社会学会の大会シンポジウムにて行うものである。

（英文）

The purpose of this study is to clarify how the social mechanism of the "Postwar Japanese livelihood security system" has been transformed under what historical and historical background, and how it has changed since the 1990s. In addition, how does such "Postwar Japanese livelihood security system" differ from the livelihood security systems in Europe, the U.S., and Asia? What are the problems facing these systems in each of these societies today?

However, due to the impact of COVID-19, I had to cancel my overseas research. Therefore, I focused my research on a review of the literature. In addition, I only conducted several domestic surveys.

Some of the research results have already been published in papers, and I plan to publish several books in 2023-2024.